



岩手県の畑ワサビに発生した *Rhizoctonia solani* による苗立枯れ症状と同種による既知病害との異同

岩手県農業研究センター いわだて 岩館 やすや 康哉・にしむら 西村 ほのか 穂花

北海道立総合研究機構 中央農業試験場 もり 森 ま 万 な 菜 み 実

北海道立総合研究機構 農業研究本部 み 三 さわ 澤 とも 知 お 央

はじめに

ワサビ (*Eutrema japonicum*) は、アブラナ科に属する日本原産の食用作物である。独特な刺激臭や辛味成分をもち、食欲増進や殺菌作用効果があることから、日本の食文化に馴染み深い香辛料として古くから利用されてきた。岩手県では、林間地でのワサビ(畑ワサビ)栽培が盛んであり、畑ワサビの生産量(根茎+葉柄)は350.7tと、全国生産量(686.6t)の約半分を占める(林野庁, 2022)。

近年、畑ワサビの主産地である岩手県岩泉町において、育苗期における苗の出芽不良や生育不良、枯死症状が多発し問題となっている。筆者らは、病原菌を分離・同定し、この症状が *Rhizoctonia solani* AG-2-1 によって引き起こされる病害であることを明らかにした(森ら, 2021)。日本植物病名目録には *Rhizoctonia* 属菌によるワサビ病害として茎腐病および葉腐病の2病害が記載されている(横木, 1932; 竹内ら, 2008)。また、日本植物病名目録には未掲載ではあるが苗立枯病についても報告事例がある(鈴木, 1976)。今回確認された症状は苗立枯れ症状であったことから、病名として苗立枯病を提案したところである(森ら, 2021)。また、病名の検討過程において、日本植物病名目録にあるワサビ病害の病名の一部は修正が必要であることを見だし、病害の発生実態や症状に合致した病名に整理することを提案した(森ら, 2021)。本稿では、岩手県岩泉町における畑ワサビ栽培の概要と、同町で発生した *R. solani* AG-2-1 によ

るワサビ苗立枯病、および *R. solani* による既報のワサビ病害の病名について再検討した内容を紹介する。

I 岩手県におけるワサビ栽培

1 水ワサビと畑ワサビの違い

ワサビには、二通りの栽培方法がある。一つ目は、苗を溪流や沢等に造成した「わさび田」に移植し、養水をかけ流しながら育てる方法であり(図-1)、二つ目は、苗を山林に直接植え付けて育てる方法である(図-2)。前者の方法により栽培されたワサビは「水ワサビ(沢ワサビ)」, 後者は「畑ワサビ」と呼ばれている。植物学上はどちらも同じワサビであり、それぞれの栽培方法に応じた専用品種は存在しない。育苗方法に違いはなく、ハウスもしくは畑地で育苗される。定植する本圃の環境の違い(わさび田・山林)によって、主として利用する部位が異なる。水ワサビは、主に根茎(すりおろして利用される部分)の収穫を目的とする(図-3)。栽培には多量の水資源と労力が必要となるが、収穫された根茎の品質は畑ワサビよりも優れており、生食用として高値で取



図-1 沢に造成した「わさび田」で栽培される水ワサビ (岩手県遠野市)

Wasabi Damping-Off Caused by *Rhizoctonia solani* Occurred in Iwate Prefecture and Difference from other *Rhizoctonia* Diseases of Wasabi. By Yasuya IWADATE, Honoka NISHIMURA, Manami MORI and Tomoo MISAWA

(キーワード: ワサビ, 病名, 苗立枯病, 茎腐病, 株腐病)